

ご勇退

2023. 9. 11

以前勤務した学校の部活動の教え子から「高澤先生 ご勇退祝いメッセージ」というものをいただいた。16年前の卒業生である。卒業以来、会ってはいない。お盆に教え子たちが集まってくれたが、都合が合わず、参加できないということで、メッセージを送ってくれた。

「この度はご勇退、おめでとうございます。2007年度卒業の〇〇〇〇です。2007年度の〇〇〇〇と言ってもわからないと思うので、今画面に映しているこの〇がついた人物です」と言って、卒業アルバムの男子ソフトテニス部の懐かしい写真が出てきた。

「現在は、愛知県名古屋市で、WeB制作とかドローンとか、AIとか、そういったものの会社を経営しています」道理でビデオの完成度が高いと思った。画面越しではあるが、まだ30代前半にして、経営者の雰囲気十分に漂っていた。

「レギュラーとかではなくて、全然勝てなかったんですけど、先生との思い出としては、本当にいろいろとあったんですけど、一言で言うと、まあ、おっかない先生でしたね」「一つ覚えていることがありますして、先生が集合かけたときに、〇〇お前はなんか勝ちたいのは伝わるんだけど、なんかずれているんだよなと一言、今でもすごく覚えています」「先生のおかげで、ぼく、そこからちょっとずれているんだなというふうに意識して、それはいい意味でずれているという認識だったんですけども、そこからちょっと世間とは違うんだなというところで人生歩み出してみても、ずれているからこそ、今、会社経営の道に走ったのかなととらえていて、その一言がなかったら、逆に平凡に過ごしていたんじゃないかと考えると、今の道をつくってくれたのは先生のおかげでもあります」「先生の厳しい練習があったからこそ、社会に出て、あんときよりはましかなみたいなことも思うこともありましたし、おかげで強く生きていけているのかなと思います」「愛知から先生のご勇退をお祝いさせていただくとともに、これからの益々のご活躍をお祈りしてあいさつとさせていただきます。この度は、本当におめでとうございます。それではまた、どこかでお会いしましょう」

会ってみたくなった。聞きたいことがたくさんある。いわゆるレギュラーではなかった教え子たちは、私が覚えていないだろうと思うようだが、そんなことはない。今回の彼もよく覚えている。一生懸命だった。だが、なかなか勝てなかった。勝たせてあげられなかった。

前述の一言は、申し訳ないが覚えてはいない。どうやら、生徒に響いた一言というのは、意外とこちらは意識しないで言っていることが多い。こちらがねらって発した言葉は、たいてい響かない。不発で終わる。

ご勇退と言われると、そうなのかと思う。本人には、そんな気は全くない。福島県の公立学校の教員を長きにわたり務めてきた。それが終わる。一区切りであることはまちがいない。だが、まだまだ仕事は続ける。社会貢献もしたい。

とはいえ、社会に出てもやっていけるような厳しい部活動の指導からは、ご勇退である。ちょっと考えることがある。あのまま今まで顧問を続けていたとしたら、果たして、自分の指導を変えたのだろうか。変えることができたのだろうか。

今回は、彼のエピソードを紹介したが、一人一人の教え子たちに、それぞれ忘れられないエピソードがあるはずである。そう思うと、改めて部活動の顧問の役割は、責任重大だと感じる。彼を含めて、今まで出会ってくれた教え子たちに感謝である。